



《笑顔でチャレンジ!》

# 学校だより

上越市立下黒川小学校

第 2 号

令和2年5月11日発行

Tel.536-2467 FAX 536-6506

## 目に見えない敵 ウイルスと弱い心

校 長 遠藤 俊幸

新型コロナウイルス感染防止のため、運動会や米山登山など、様々な学校行事を中止、延期としました。地域との交流の場、長年続いてきた伝統行事、何よりも児童の気持ちを考えると、苦渋の判断となりました。感染予防と教育活動の両立は、簡単なことではありませんが、命と健康を守ることを最優先に全力で取り組んでいきます。どうぞ、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

さて、下黒川小学校では、国が定めたいじめ防止対策推進法に基づいて、4月に配付したPTA総会資料で示したとおり、「下黒川小学校いじめ防止基本方針」を策定して、いじめの未然防止、早期発見に努めています。具体的には、定期的に児童理解の会を開催したり、アンケートを取ったりしながら児童の人間関係のトラブルを素早く把握し、解決を図ります。

「いじめは、よくない。」ということは、どの児童も知っていることです。しかし、毎年のように「いじめ」に関するニュースが世間を騒がせています。

「いじめ」が無くならないのは、なぜなのでしょう？

「いじめは、目に見えないウイルスの様なものだ。」と言った人がいます。「叩き潰そうとすると、あちこちに飛び散って増えてしまう。強い力で押し込んでしまおうとすれば、かえって深く潜って見えないところで増殖してしまう。」と言うのです。いじめがなくなるのは、私たち大人が叩き潰そうとするからかもしれません。

では、どうすればよいのでしょうか？

いじめをなくすためには「じっくりと温めて溶かし出して消し去るしかない。」と先の方は言います。いじめが児童の心の中にある問題だとするならば、親や教職員が頭から押さえつけても解決はしないということです。

下黒川小学校では、トラブル等があると、児童の話をじっくりと聴き、その要因を探り、理解してあげるよう努めています。同時に、道徳の時間では他者への思いやりの心を育み、学級活動や学校行事では話を大切にしながら児童主体の活動を推進し、一人一人の居場所がある学級、学校づくりを進めています。

ウイルスは目に見えない敵です。しかし、それ以上に怖いのは人の心に棲む、差別や偏見の拡散であり、最も恐れるのは周りを信じられなくなることです。児童がデマやうわさに惑わされず、正しい情報からの確に判断し、心ある言動に努め、いじめや差別を生まないよう、心に染み入る指導を行っていきます。